

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和1年12月9日  
北アルプス地域振興局

提出区分	実績				
整理番号	22	課題区分	A		
実施機関	北アルプス地域振興局、北アルプス農業改良普及センター			担当課	所属 農政課
事業名	北アルプスの酒PR事業 (日本酒まるわかり体験会)			電話	0261-23-6510
				E-mail	<a href="mailto:kitachi-nosei@pref.nagano.lg.jp">kitachi-nosei@pref.nagano.lg.jp</a>
事業の概要	目的 (目指す姿)	「酒蔵ニーズに応える大北産高品質酒米プロジェクト」の取組や同プロジェクトにより完成した日本酒、主に北アルプス産の酒米を使った日本酒を首都圏の小売酒販店に向けPRすることにより、北アルプス産の日本酒及び酒米の認知度向上と販路・消費拡大を図る。			
	現状と課題	1 県内の酒米主力品種「美山錦」の約5割を生産する県下一番の酒米産地 2 平成27年度から「酒米ニーズに応える大北産法品質酒米プロジェクト」とし、酒米の高品質化に向けた栽培技術の実証・普及や醸造適性に優れた新品種「信交酒545号(山恵錦)」の普及を酒蔵・酒米生産者・指導機関の3者が連携して取り組んできた 3 平成30年度は、同プロジェクトの取組により完成した日本酒を、管内で開催されるイベントを活用して一般消費者にPRすることにより、北アルプス産の地酒のイメージアップを図った 4 日本酒の需要は高級酒にシフトしており酒蔵からは、その醸造に対応できる高品質な酒米の生産・供給を求められている一方、当地域の酒米及び日本酒に対する認知度が不足しておりPRが必要となっている			
概要	内容 (変更後の内容)	酒蔵、酒米生産ほ場、アルプス搗精工場を巡る体験会の実施。 1 期日 令和元年8月27日(火) 2 参加者(対象) 首都圏の小売酒販店 3 行程 大雪溪酒造株式会社(池田町)→株式会社ヴァンベール平出 酒米水田(大町市)→創舎わちが い(昼食)(大町市)→株式会社薄井商店(大町市)→アルプス搗精工場(視察・試飲会)(大町市)			
	事業期間	令和元年8月27日			
成果目標 (成果指標)	1 当地域の酒米及び日本酒のPR 2 小売酒販店との商取引				

事業費	(単位:円)			
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考
	北アルプスの日本酒試飲会	試飲日本酒購入	7,480	
	旅行保険加入	国内旅行傷害保険料等	6,560	
	バス借上	新宿～大町バス借上げ料	237,920	
合 計			251,960	

事業実績・成果	事業実績	事業の成果	評価
	1 体験会実施案内 首都圏の小売酒販店及び小売酒販組合などに案内チラシと「信州日本酒ガイド」(日本酒・ワイン振興室作成)を送付。 2 酒蔵等見学 酒蔵(2か所)、酒米生産ほ場、アルプス搗精工場を案内し、当地域の特色ある酒米づくりや日本酒の醸造を現地で説明。 3 日本酒試飲会 アルプス搗精工場にて地元酒蔵参加(5社)による 試飲会を実施。 4 アンケート調査 参加者に今回の企画や日本酒の感想を聞き取った。	1 体験会実施案内 首都圏の小売酒販店及び小売酒販組合あてに約250通を送付。参加に至らなかった送付先からも今回の企画に興味を持ったとの声が寄せられた。 2 酒蔵等見学 現地での説明により、当地域の酒米と日本酒の魅力をより深くPRできた。また、酒米水田見学はこれまでなかった経験であった旨、参加者のSNS発信が見受けられた。 3 日本酒試飲会 試飲会を通じて各酒蔵から、各地酒の特徴や地域と連携した酒造りを伝えた。 4 アンケート調査 商取引を検討したいとの回答を85%得た。 5 商取引(実施後約1か月後聞き取り) 3つの酒蔵に対して4つの小売酒販店から新しい商取引があった。	○ 期待以上  ● 期待どおり  ○ やや下回る  ○ 期待以下

今後の方向性 現行事業の予算に対する改善意見・要望(局長提案)として、県内各地域での実施を提案するとともに、局内の各課等が連携しながら地域の酒米及び日本酒の情報発信及び生産振興を図る。